opusdei.org

属人区長の書簡 (2011年11月)

周囲の人々に信仰を示す、ことに自分自身の生き方を通してそうすることは、すの「喜者にとって「喜ばしい義務」であると、エリンが、サージをはいがあると、エリンが、サージをはいが、まず、で述べます。

2011/11/08

愛する皆さん、イエスが私の娘たち と息子たちをお守りくださいますよ うに!

教会は、11月にあたって、地上の事 柄の向こう側に目を上げるよう私た ちを招きます。今日祝う諸聖人の祝 日、そして明日の死者の日は、主が 私たちを創られたのは、私たちがこ の世で主に仕え、主を褒め称えた 後、天国で共に永遠の幸福を味わう ためであると、私たちに語りかけま す。地上での生活がどんなに長くて も、永遠に比べればほんの一瞬に過 ぎないのです。詩編の一節はこう教 えています。「人の生涯は草のよ う。野の花のように咲く。風がその 上に吹けば、消えうせ、生えていた 所を知る者もなくなる。主の慈しみ は世々とこしえに主を畏れる人の上 にある。」[i] 創立者はこの部分を 度々コメントし、こう締めくくって おられました。Vultum tuum, Domine, requiram! [ii] 主よ、私は御 顔を尋ね求めます。

本当に価値ある唯一のことは、イエス・キリストが準備された御父の家

に辿り着くことです[iii]。天国で至福直観に浸っている幸いな人は、それがよく分かっていますし、栄光に与るために煉獄で清めを受けている人たちは、そこに到達することを恋い焦がれています。

典礼上のこの二つの記念日だけでな く、始まったばかりの今月全体は、 日々、より深い良心の糾明をするた めの絶好の機会です。改めて熱心に 神を待ち望み、正すべきことは正す ようにしましょう。「人は、たとえ 全世界を手に入れても、自分の命を 失ったら、何の得があろうか。自分 の命を買い戻すのに、どんな代価を 支払えようか。」[iv] 主のこの質問 を日々よく反芻し、行動の規範にす べきです。「この地上に住まう生き ものも、知性や意志が抱く大きな望 みも、一体何の役に立つでしょう。 全てに終わりがあり、全ては崩れ去 る。この世の富といえども舞台の書 割に過ぎません。ところが後の世

は、いつまでもいつまでも、永遠に 続きます。

現世の事柄について永遠という言葉を使えば嘘をつくことになります。神に向かいつつ永遠と言って初めて、嘘いつわりのない真理を述るるとになるからです。あなたもこのように信仰の助けを借りて、蜜の味と天国の甘美を味わいつつ、真の意味の永遠を考える毎日を送らなければなりません。」[v]

スからわき出るいのちの泉の水を飲 むよう私たちを招いているからです (ヨハネ4:14参照)。| [vi] 今月 は、諸聖徒の交わりを生き生きと思 い浮かべ、多くの人を主に近づける 望みを私たち一人ひとりの中に燃え 立たせてくださいと、至聖三位一体 の第三のペルソナに願うよう促され るでしょう。Ure igne Sancti Spiritus! 創立者を突き動かしていた この叫びを私たちも繰り返しましょ う。主よ、聖霊の愛熱で私たちを燃 え立たせてください。私たちの知性 を照らし、意志に実効的な決意をさ せ、心を強める御身の働きで、私た ちが、新たな機会を作り出しつつ、 あらゆる機会において出会う人たち を神に近づかせることができるよ う、絶えず使徒職に奮い立たせてく ださい。

日々、新たな熱意で使徒職に取り組むよう励まなければなりません。

「私たちは、教会が忠実に伝えてき

た神のことばと、弟子たちを生かす ために与えられたいのちのパンの味 を再発見しなければなりません(ヨ ハネ6:51参照)。実際、イエスの教 えは現代においてなお同じ力をもっ て響き渡ります。『朽ちる食べ物の ためではなく、いつまでもなくなら ないで、永遠のいのちに至る食べ物 のために働きなさい』(ヨハネ 6:27)。聴衆が述べた問いは、現代 の私たちが述べる問いと同じです。 『神のわざを行うためには、何をし たらよいでしょうか』(ヨハネ 6:28)。私たちはイエスの答えを 知っています。『神がお遣わしに なった者を信じること、それが神の わざである』(ヨハネ6:29。それゆ え、イエス・キリストを信じること が、決定的なしかたで救いに至るた めの道です。) [vii]

いつものように、慈しみ深い贖い主 のお姿を注視しましょう。私たちの 神であり救い主であられる主を信じ ることが必要です。主は、聖霊の助けによって私たちを父なる神の栄光に与らせようとお望みなのです。そのお望みは極めて強いものでしたから、あるとき弟子たちにこう仰せられたほどでした。Ignem venimittere in terram, et quid volo nisiut accendatur? [viii] 私が来たのは、地上に火を投ずるためである。その火が既に燃えていたらと、どんなに願っていることか。

聖ホセマリアは非常に若い時から、このみことばに心動かされていました。「私は、何年もの間、この世を神の愛の火で焼き尽くすイエスの熱望を考え、神への愛を燃え立たせていました。猛烈に沸き起こったあとはできず、主と同じことばで叫びたていました。Ignem veni mittere in terram, et quid volo nisi ut accendatur?...Ecce ego quia vocasti me (ルカ12:49、1列王記3:9) 私が

慰め主に願いましょう。私たちの心を燃え立たせ、キリストと共に全ての人を救う熱意を体験させてください、と。「Ignem veni mittere in terram! 地上に火を投ずるために来た。私たちはその火で燃え立っといるべきです。そして、きっぱりとした態度を維持し、主に申し上げなければなりません。Ecce ego quia vocastime!(1サムエル3,8)私はここにお

ります。御身が、キリスト者になら。 御身がになりましたから、しないませりましたでの の父親は家庭の母親はでの人がはしてなりませれる。 ははお招きではないでの人がにもした。 といるではいます。 といるとはが、するとはがいたがます。 を移れているがにもしているがにもいる を移れているがにもしているがにないます。 を移れているがにもしてなります。 が、まずないが、光代まりになりに、 が、まずとになりにない。」 「xi」

使徒職はキリスト者の喜ばしい義務ですから、各々がキリストの立場における自己ないではいるをいるをいるをいるをいるをいるをいるがあれたのでは、はいないではないでは、はいないではないでは、はいないではないでは、あるではいないないないできる。 と変いないないではいないないないないないないないないないないないない。 とがあります。しているのは、おいないないないないないないないないないないないないない。 とがあります。しているの言葉ではないことがあります。

かし、私生活や家庭生活、仕事や社 会生活における正しい振舞いが人の 関心を引かないことは決してありま せん。人々ははっきりと意識しない かも知れませんが、度々、心の中で そのような振る舞い方の理由を自問 しているはずです。こうして主の光 に向かってすでに心を開き始めてい るのです。教皇様はこう述べておら れます。「キリスト信者は、世に存 在すること自体によって、主イエス が与えてくださった真理のことばを 輝かすよう招かれています。」〔xii〕 こういうことから、ベネディクト16 世が勧めるように、『カトリック教 会のカテキズム』を勉強したり復習 したりすることが極めて重要になり ます。それは信仰と信仰のもたらす 事柄をよく知り、人々に伝えるため です。この源泉により頼むことを怠 ることなく、関わっている人たちに それを勧めるようにしましょう。

信仰とは、啓示されている真理を知 ることで終わりではなく、その内に 秘めた力から、自ずと外的に表れ出 るものです。聖パウロが教えるよう に、信仰はper caritatem operatur [xiii] 愛徳の実践を伴うものです。そ して愛徳とは、具体的な振る舞い、 まず最も近しい人たちから始めて、 人々のことを気遣い、彼らの事柄に 関心を寄せる、つまり人々に仕える ことで表されるのです。第一歩は、 神が望まれる同じことを望むことで す。神は、「全ての人々が救われて 真理を知るようになることを望んで おられます。」[xiv] これは教皇様が 最新の使徒的書簡で掲げられた目標 でもあります。「キリスト者はしば しば自らの活動の社会的・文化的・ 政治的結果に関心を向けます。そし て、信仰を社会生活の当然の前提と 考え続けます。実際には、この前提 は当然のものではなく、しばしば公 然と否定されています。過去におい ては、統一的な文化状況を見いだす

ことが可能でした。信仰の内容と、 信仰から霊感を受けた価値観に訴え ることも広く受け入れられていまし た。しかし、現代においては、社会 の広い分野において、同じことを言 うことはできません。」[xv]

聖ホセマリアは生存中、考えと言葉 と行いが信仰によって潤されている ことの必要性を説き続け、人と関わ る時には、すぐに相手を神に近づけ る方法を考えるべきだと執拗に繰り 返していました。たとえをよく使わ れていました。「あなたも私も、全 ての人には、一種の職業心理とも言 える先入観があるように思いません か。医者なら、通りである人に出会 うと、『肝臓が悪いのでは?』と とっさに考えます。仕立て屋だった ら『何て仕立てのいい服だ』とか 『何と悪い服だ』とか考えるでしょ う。靴屋は靴に注目します…。そし てあなたと私は、神の子として、主 への愛ゆえに、この世で人々に仕え

ようと決意しているのですから、 人々を眺める時にはその魂のことを 考えるべきです。自分に言い聞かせ なければなりません。この人には霊 魂がある。しかもそれは助けなけれ ばならない霊魂、理解されるべき 魂なのだ。皆共に生きるべき人での り、救われなければならない人なの だと。」[xvi]

このように振舞うのは当然です。 「キリストを再発見した人は皆、人 をキリストへと導かなければなりま せん。大きな喜びを、自分だけのも のにしておくことはできません。喜 びは、人に伝えなければならないの です。 | [xvii] キリストに忠実に 従ったあらゆる時代の人々はこのよ うに振舞ったのです。大聖グレゴリ オはこう述べています。「あなたが たは、自分が進歩したと思うなら、 他の人々をも連れて進むようにしな さい。神の道を、連れ立って進むこ とを望みなさい。兄弟たちよ、あな たがたが市場とか公衆浴場へ行くときに、暇のある人を、一緒に来るように誘ったりする。このような生活習慣を適用して、神へ向かうときにも、心して一人で神のもとに行かないようにしなさい。」[xviii]

無関心な雰囲気や相対主義がはび こっているにもかかわらず、人々の 内面には、神だけが満たし得る永遠 の飢えがあることを考えましょう。 このような事実が、新たな熱意を 持って使徒職に励むよう、日々私た ちを奮い立たせるのです。主は、キ リスト者であるあなたや私を、人々 を天国に導くための道具として使い たいとお望みであると知っているの ですから。たとえ私たちが自分を無 力だと思い、また実際にそうであっ たとしても、「キリストの十字架を 運ぶ望みを燃え立たせ、実行しなけ ればなりません。キリストの熱意、 キリストの苦難と救いを、この世界 についての意見がどのようなもので

あろうとも、多くの同僚や友人、親 戚知人に、また見知らぬ人にも、伝 えることです。それは全ての人。 兄弟として迎え入れるためです。 うして私たちは燃え立つルビーと り、無力ではなくなるのです。とな く哀れな炭が神の声、神の光とささ り、聖霊降臨の時の火のようにさえ なるのです。」 [xix]

今月の5日、ローマで助祭に叙階される35人の兄弟のために祈るようお願いして結びにしたいと思います。彼らと教会の全て役務者が、キリストの聖心と同じ大きさの心を持つことができるよう願ってください。

教皇様に固く一致し、教区司教との 交わりを保ち続けましょう。オプス・ デイに属する信者の使徒職活動を追して教会にもたらされた霊的実りを 主に感謝しましょう。特に、28日 は、オプス・デイが属人区として設て された記念日ですから、心をこめて 感謝しましょう。私たちの感謝の思いが聖母の御手で神にまで届けられますように。

心からの愛情を込めて祝福を送りま す。

皆さんのパドレ

†ハビエル

ローマ、2011年11月1日

[i] 詩編103,15-17. (新共同訳)

[ii] 詩編27,8参照. (新共同訳)

[iii] ヨハネ14,2-3参照

[iv] マタイ16,26.

[v] 聖ホセマリア、『神の朋友』 200。

[vi] ベネディクト16世、2011年10月 11日使徒的書簡『ポルタ・フィデイ 一「信仰年」開催の告示』3。

[vii] 同上。

[viii] ルカ12,49(ヴルガタ訳).

[ix] 聖ホセマリア、1959年1月9日手 紙9。

[x] 聖ホセマリア、1975年2月12日家 族の集まりのメモ。 [xi] 聖ホセマリア、1975年2月9日家 族の集まりのメモ。

[xii] ベネディクト16世、2011年10月 11日使徒的書簡『ポルタ・フィデイ 一「信仰年」開催の告示』6。

[xiii] ガラテヤ5,6.

[xv] ベネディクト16世、2011年10月 11日使徒的書簡『ポルタ・フィデイ 一「信仰年」開催の告示』2。

[xvi] 聖ホセマリア、1963年2月25日 家族の集まりのメモ。

[xvii] ベネディクト16世、2005年8月 21日説教。

[xviii] グレゴリウス一世、『福音書講話』1,6,6 (邦訳版86-87ページ)。

[xix] 聖ホセマリア、1974年6月2日 家族の集まりのメモ。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shuren-qu-chang-noshujian-2011nian-11yue/ (2025/12/15)